

# 複素係数二次方程式と解の公式の考察

bear56

2007年9月29日

## 目次

1	二次方程式の解法	2
2	二次方程式の解の公式の導出	2
3	複素係数の場合の考察	3
4	おわりに	3

## 1 二次方程式の解法

$x$  の二次方程式の解法について考える .

$$ax^2 + bx + c = 0 \quad (a \neq 0) \quad (1)$$

この式が、一次式の積に因数分解できる場合、

$$(x - \alpha)(x - \beta) = 0 \quad (2)$$

このとき、

$$x - \alpha = 0, \text{ または } x - \beta = 0 \quad (3)$$

と分割でき、解  $x = \alpha, \beta$  を得る .

## 2 二次方程式の解の公式の導出

次に、二次方程式の解を、その係数で表す式を導く .

(1) の両辺を  $a$  で割り、 $(b/2a)^2$  を足し引きして完全平方式を作る .

$$\begin{aligned} 0 &= x^2 + \frac{b}{a}x + \frac{c}{a} \\ &= x^2 + \frac{b}{a}x + \frac{c}{a} + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 - \left(\frac{b}{2a}\right)^2 \\ &= \left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 + \left(\frac{b}{2a}\right)^2 + \frac{c}{a}. \end{aligned} \quad (4)$$

移行して、整理すると、

$$\left(x + \frac{b}{2a}\right)^2 = \frac{b^2 - 4ac}{4a^2}. \quad (5)$$

開平して、

$$x + \frac{b}{2a} = \frac{\sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \quad (6)$$

$x$  について整理して、二次方程式の解の公式 (7) を得る .

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}. \quad (7)$$

ここで、求めた解  $\alpha, \beta$  と、係数  $a, b, c$  の間には、次の関係が成り立つ .

$$\alpha = \frac{-b + \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}, \quad \beta = \frac{-b - \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \quad (8)$$

$$\alpha + \beta = -\frac{b}{a}, \quad \alpha\beta = \frac{c}{a} \quad (9)$$

### 3 複素係数の場合の考察

ここまで、係数は実数であるとは言及しておらず、式操作の過程においても、係数を複素数として不具合はない。条件は  $a \neq 0$  だけである。

したがって、複素係数二次方程式についても、解の公式 (7) が適用できる。むしろ、係数は複素数と考えるほうが自然で、実係数はその特殊な場合だと言える。

なお、解の公式 (7) には根号が含まれるが、複素係数と実係数とで、状況が異なる。

- 複素係数の場合

係数が複素数であれば、無造作に平方根を求められる。

虚数単位  $\sqrt{-1} = i$ 、つまり、複素数の定義により、これが可能である。

複素数の平方根は、2 つ求まるが、(7) の形式から、一方を取れば十分である。

複素数  $z = b^2 - 4ac$  として、

$$z = u + iv, z^* = u - iv \quad (u, v \text{ は実数})$$

$$r = |z| = \sqrt{z z^*} = \sqrt{u^2 + v^2}, \theta = \tan^{-1} \frac{v}{u}$$

とすると、極座標表示で、

$$z = r e^{i\theta} = r (\cos \theta + i \sin \theta).$$

その平方根は、

$$z^{\frac{1}{2}} = r^{\frac{1}{2}} e^{i\frac{\theta}{2}} = \pm \sqrt{r} \left( \cos \frac{\theta}{2} + i \sin \frac{\theta}{2} \right).$$

- 実係数の場合

係数が実数であれば、解の判別式を  $D = b^2 - 4ac$  として、以下の 3 つの場合を考慮する必要がある。

$D > 0$  : 解は 2 つの実数

$D = 0$  : 解は 1 つの実数 (重解)

$D < 0$  : 解は 2 つの虚数 (共役複素数)

### 4 おわりに

なお、本考察には、文献 [1] を参考にした。

### 参考文献

[1] 吉田武. オイラーの贈物. ちくま学芸文庫. 筑摩書房, 2001.